

委員長賞

(中学生の部)

ボランティアでつながる地域の輪

岸和田市立光陽中学校 2 年

野田 凜 さん

私が所属している生徒会で、「社会を明るくする運動」について取り組む機会があった。そこで、社会を明るくする運動について調べてみると、保護司さんをはじめとするたくさんのボランティアが関わっているのに、それでも再犯率が高い現象を知ることができた。再犯率が高いのは、やはり社会復帰が難しく、帰る場所がない、というものが理由の一つだと言えるだろう。私は、過ちを犯してしまった人を地域の中に受け入れるのは難しいことだと思う。しかし、ボランティアなどの、地域活動・社会貢献活動を行っていくことで、再犯を防ぎ、社会を明るくすることにつながるのではないだろうか。

私は、ボランティア活動には困っている人々を助けたり、環境保護活動という社会貢献としての側面だけでなく、私は地域の仲を深める活動という側面を持っていると考える。実際、登下校の時間に合わせて地域の方が小学生の見守りボランティアをしている。私も登校するときに「おはようございます。」と挨拶をしたり、信号を待っている間に毎日雑談をすることで、明るい気持ちでいられる。自分以外の通勤する人、通学する人にとっても同じだろう。このように、地域の小学生から大人まで、地域の方によって見守られている安心感、そしてボランティアの方の責任感があれば、「もう一回犯罪やってもいいか。」と思う人は減るはずである。

先日、生徒会で行う活動として、いくつかのグループに分かれて、保護司さんやボランティア活動に携わる方と話し合いを行った。私のグループでの話し合いの中で、特に印象的だったのは、「ひとりひとりが少しずつ意識できたら、日常的に社会貢献ができますよ。」という言葉である。社会を明るくする運動について調べたときに、「犯罪や非行を防止」という言葉を見て、私は自分とはあまり関係ない話のように思えてしまった。しかし、この言葉を聞いたあとでは、社会貢献が自分にもできるもの、そして、より身近なものに感じることができた。例えば、家から公園に散歩するなどして外出する時に、ゴミ袋を持って目的地までの道中で落ちているゴミを拾う。この行為は、日常的に、明日からでも始められる社会貢献の活動になるだろう。すべての人が社会に対しての意識を少しでも持つことが大切だと感じた。

これらのことから、再犯率が高いという社会課題に対して、私たちは活動について色々な人に興味を持ってもらい、地域の仲を深めるようにすべきだ。繰り返しになるが、再犯や非行をしてしまう人は、社会復帰が難しく、帰る場所がないという事情が存在する。しかし反対に言えば、みんなが快く過ごせる場所があると、きっとこのような人は減るはずである。そのために、私はもっとボランティア活動について色々な人に身近に感じてもらうことで、地域のつながりが増え、社会を明るくすることができると考えた。